

はしがき——絶望の裁判所

第1章

私が裁判官をやめた理由

——自由主義者、学者まで排除する組織の構造

私が裁判官になった理由／葉害裁判と留学／最高裁判所事務総局で感じた違和感／談合裁判、判決内容の事前リーク、東京地裁内の出来レース選挙／大阪高裁と那覇地裁沖縄支部での経験／最高裁判所調査官就任、闘病生活、筆名の執筆と実名による研究／さらに研究に打ち込む／学者への転身／転身に関するいやがらせと早期退官の事実上の強要／私がたどった軌跡の意味

第2章

最高裁判事の隠された素顔

——表の顔と裏の顔を巧みに使い分ける権謀術数の策士たち

裁判所における人事の実情／最高裁判事の性格類型別分析／よい裁判官は最高裁には入れない？／裁判員制度導入の舞台裏／刑事系裁判官の問題点と不人気／刑事系裁判官の逆襲と大規模情実人事／学者が誰一人認めない「学者枠」最高裁判事

第3章

「檻」の中の裁判官たち

——精神的「収容所群島」の囚人たち

事務総局中心体制——上命下服、上意下達のヒエラルキー／人事による統制とラツトレース／恣意的な再任拒否、退官の事実上の強要、人事評価の二重帳簿システム／司法研修所という名の人事局の出入機関、職人的教育システムの崩壊／裁判所による取材統制と報道コントロール／「檻」の中の裁判官たちⅡ精神的「収容所群島」の囚人たち／裁判所の官僚化の歴史とその完成

第4章

誰のため、何のための裁判？

——あなたの権利と自由を守らない日本の裁判所

統治と支配の根幹はアンタッチャブル／及び腰と追隨の民事裁判／和解の強要、押し付け／水害訴訟に関する大規模追隨判例群、新しい判断をさらう裁判官たち／司法判断の活性化の必要性／それでもボクはやってない／は、あなたにも起こる／裁判員制度の陪審員制度への移行の必要性／やる気に乏しい裁判官が目立ち手続保障の感覚が鈍い家裁、「家裁の人」の限界／「裁判官多忙」の神話／現在の制度ではよい裁判は望めない

第5章 心のゆがんだ人々

——裁判官の不祥事とハラスメント、裁判官の精神構造とその病理——

多過ぎる不祥事、日常的なハラスメント／裁判官の精神構造の病理／イヴァン・イ
リイチの問題とイリイチ以下の高位裁判官たち／私というケース——一人の人間に
立ち返るまで

第6章 今こそ司法を国民、市民のものに

——司法制度改革の悪用と法曹一元制度実現の必要性——

日本のキャリアシステムの非民主性／裁判官の能力低下傾向、優秀な裁判官の離散
傾向／キャリアシステムの実質的な崩壊の可能性／弁護士任官制度と判事補の他職
経験制度の限界／司法制度改革を無効化し悪用した事務総局解体の必要性／法曹一
元制度実現の可能性、必要性／憲法裁判所の可能性／今こそ司法を国民、市民のも
のに

あとがき——不可能を可能にするために——

第1章

私が裁判官をやめた理由^{わけ}

——自由主義者、学者まで排除する組織の構造——